

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分
 【発行日】平成 20 年 7 月 3 日 (2008.7.3)

【公表番号】特表 2003-533556 (P2003-533556A)
 【公表日】平成 15 年 11 月 11 日 (2003.11.11)
 【出願番号】特願 2001-576919 (P2001-576919)
 【国際特許分類】

C 0 8 G 65/333 (2006.01)

A 6 1 K 6/087 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 G 65/333

A 6 1 K 6/087

【手続補正書】

【提出日】平成 20 年 4 月 11 日 (2008.4.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】(A) 0.1 ~ 50 重量 % の少なくとも一つのブレンステッド酸、
 (B) 0.1 ~ 20 重量 % の水、
 (C) 0.1 ~ 50 重量 % の、元素であるアルミニウム、クロム、銅、ゲルマニウム、マンガン、鉛、アンチモン、錫、テルル、チタン及び / 又は亜鉛の酸化物、水酸化物、炭酸塩及び / 又はカルボン酸塩から成る群からの少なくとも一つの制酸性の化合物、
 (D) 0 ~ 95 重量 % の少なくとも一つの不活性希釈剤、
 (E) 0 ~ 50 重量 % の変性剤、
 を含む触媒成分であって、

上記の重量 % のデータがそれぞれ、前記触媒成分の総質量に対するものであること、及び、前記ブレンステッド酸の 1 酸当量に対して 0.5 ~ 2.0 塩基当量の制酸性化合物が使用されていることを特徴とする触媒成分。

【請求項 2】前記制酸性化合物が酸化亜鉛から成ることを特徴とする請求項 1 に記載の触媒成分。

【請求項 3】前記構成成分 (A) が、アリアルスルホン酸、アルキルスルホン酸及びアルキルベンゼンスルホン酸から選ばれることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の触媒成分。

【請求項 4】前記構成成分 (A) が p トルエンスルホン酸又はドデシルベンゼンスルホン酸から成ることを特徴とする請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の触媒成分。

【請求項 5】酸化亜鉛と p トルエンスルホン酸が 1 : 1.5 ~ 1 : 2.5 のモル比で使用されていることを特徴とする請求項 2 又は 4 に記載の触媒成分。

【請求項 6】1 重量部の前記触媒成分と、1 : 3.5 のモル比の酸化エチレン及びテトラヒドロフラン単位から成るポリエーテルジオールから調製可能な、3100 の平均イミノ当量質量を有するビスアジリジノポリエーテル 3 重量部との混合物が、0.5 ~ 20 分以内に固化して、室温での 24 時間の貯蔵の後、DIN 53505 による少なくとも 20 のショア A 硬度を有する固形の弾性体になることを特徴とする請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の触媒成分。

【請求項 7】ブレンステッド酸を水と一緒に 20 ~ 70 で前記構成成分 (D) による不活性希釈剤の一部に溶かし、制酸性の化合物の懸濁液をその溶液に添加することを特

徴とする上記請求項のいずれか 1 項に記載の触媒成分の調製方法。

【請求項 8】前記構成成分 (A)、(B)、(D) 及び (E) による化合物からペーストを調製し、つぎに制酸性の化合物が添加されることを特徴とする請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の触媒成分の調製方法。

【請求項 9】前記制酸性の化合物が、制酸性の化合物及び不活性希釈剤の一部から調製されたペースト又は懸濁液の形で添加されることを特徴とする請求項 7 に記載の方法。

【請求項 10】硬化性の調製物の調製のための N - アルキルアジリジノ基含有化合物から成る基本成分と一緒に用いた請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の触媒成分の使用。

【請求項 11】前記触媒成分の構成成分 (A) として使用されるブレンステッド酸対基本成分の N - アルキルアジリジノ基含有化合物の重量比が、ブレンステッド酸の酸当量対 N - アルキルアジリジノ基含有化合物のイミノ当量が 1 : 0.5 ~ 1 : 5 に保持されるようにして選ばれることを特徴とする請求項 10 に記載の使用。